

第16期 株主通信

〔 2013年4月 1日から
2014年3月31日まで 〕



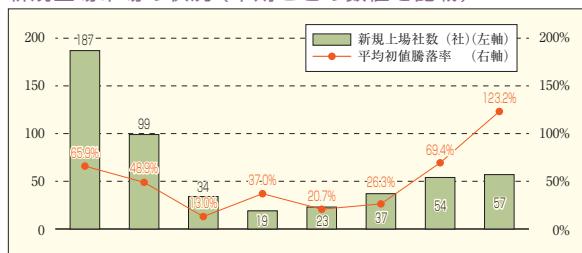
フューチャーベンチャーキャピタル株式会社

株主の皆さまには、平素より当社事業にご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに2014年3月期の当社を取り巻く環境及び活動の状況をご報告申し上げます。

日本国内における当期間の新規上場社数は57社となり、前年同期の54社からは微増であったものの、上場後の初値が公募価格を大きく上回るケースが相次ぎ、新規上場を目指す企業群にとっては期待感の強まる環境が形成されつつあります(下図)。

当社におきましては、6月に(株)ジェイエスエス、9月に(株)アドメック、12月に(株)ダイキアクシスが上場し、2011年3月期から4期連続で上場企業を輩出しています。

新規上場市場の状況(半期ごとの数値を記載)



初値騰落率 $(\text{初値} - \text{公募価格}) \div \text{公募価格} \times 100$

新規上場企業のご紹介

上半期の2社に続き12月に東証二部に上場した(株)ダイキアクシス(本社:松山市)は、浄化槽をはじめとする各種水処理設備の製造、施工、販売、及び維持管理、並びに住宅関連商材の販売等を行う愛媛県内の企業です。えひめベンチャーファンド2004はこれで投資先11社のうち6社が上場と、上場確率でみれば稀有な成果を収めました。



明るい兆しが見えはじめた経営環境の中、当社はベンチャーキャピタル事業の強化と新たな収益源の獲得に注力しております。

ベンチャーキャピタル事業の強化としては、目下、企業間連携支援を推進しており、既に個別の案件マッチングにより具体的な成果が出始めております。オープンイノベーションを促進するツールとして開発した企業間連携支援システムの運用についても、今後本格化してまいります。

また、ファンドについては、2014年3月期中にもりおか起業ファンドの規模を50百万円から100百万円に増額した他、6社の上場会社を輩出したえひめベンチャーファンド2004の後継ファンドとして、えひめベンチャーファンド2013を500百万円で設立しました。

新たな収益源の獲得としては、京都、大阪に展開するシェアオフィスの更なる地域展開を推進している他、もりおか起業ファンドのように、従来型のベンチャーファンドとは異なる軸を有したファンドの企画を進めてまいりました。2014年3月期中には実現しなかったものの、2014年6月に事業会社との二人組合として、ブリッジベンチャーファンド2014を設立しました。これはいわゆるCVC、すなわち事業会社の戦略目的に沿ったベンチャー企業を発掘、投資する取り組みであり、前述した企業間連携システムを活用しながら、同様の取り組みを増加させる計画でございます。

また、自治体向けコンサルティング事業についても、継続して取り組んでまいります。

なお、こうした新たな収益源の獲得に向けた取り組みを行う一方、経費の抑制についても継続しており、当期の固定的費用は前期とほぼ同水準で推移しております。

こうした施策を通じ、事業収益を改善するとともに、長期的な収益の源泉となるファンド組成を実現すべく、努力を重ねてまいります。引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年6月
代表取締役社長 今庄 啓二

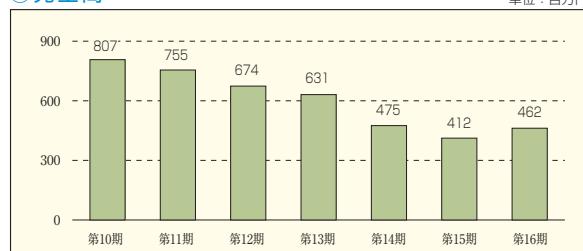
本資料における記載数値について

当社では連結での決算を行っておりますが、当社の経営成績及び財務状態をよりの確に表すため、本資料では、基本的に投資事業組合の当社持分のみを連結した個別財務数値を記載しております。

業績ハイライト

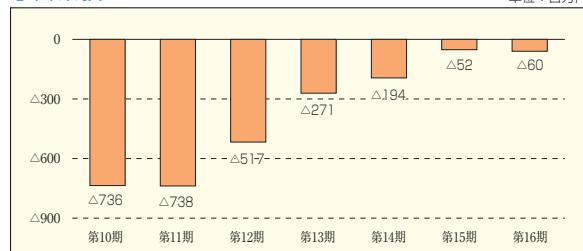
① 売上高

単位：百万円



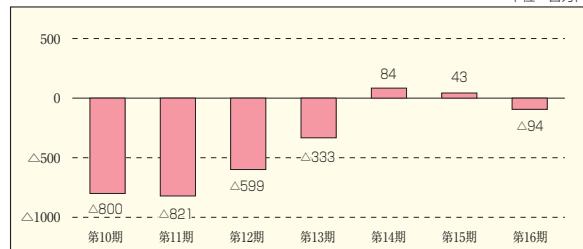
② 営業損益

単位：百万円



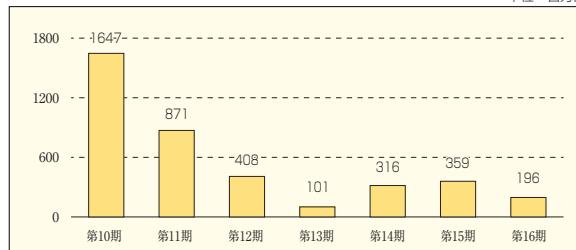
③ 当期純損益

単位：百万円



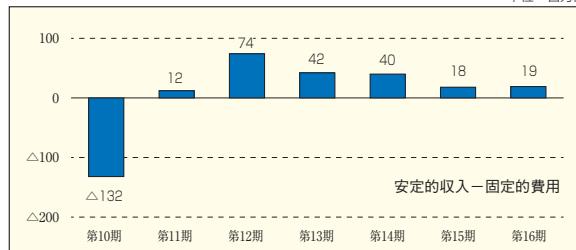
④ 純資産

単位：百万円



⑤ 安定的収入と固定的費用

単位：百万円



当期の業績を見てまいりますと、投資事業組合から受領する管理報酬は減少したものの、(株)ジェイエスエス上場に伴う株式売出等により、売上高は462百万円、前期比増収となりました(3頁①)。一方、営業投資有価証券の売却損益が芳しくなかったことから、営業損失は60百万円(3頁②)、当期純損失は94百万円(3頁③)となり、前期比悪化しました。

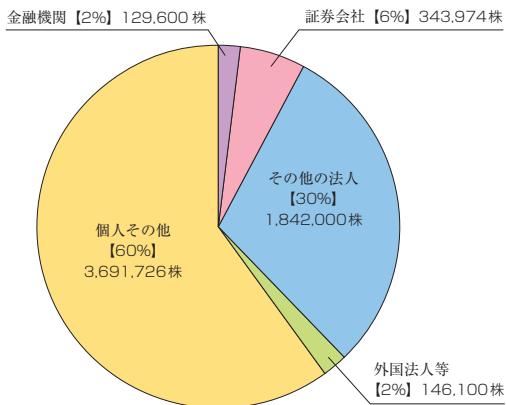
当期末時点の純資産は、当期純損失を計上したことに加え、上場後継続保有している営業投資有価証券の株価値下がりによりその他有価証券評価差額金をマイナス計上したこと、前期末比163百万円減少しています(4頁④)。

なお、当期におきましても営業損失を計上しておりますが、前期に続き、販売費及び一般管理費等の固定的な支出をファンドからの管理報酬を中心とした安定的な収入によって賄う状態を維持しております(4頁⑤)。

株式データ

- 発行可能株式総数 18,000,000株
- 発行済株式の総数 6,153,400株
- 株主数 1,696人

所有者別株式分布表



大株主の状況

| 株主名 | 当社への出資状況 | |
|--------------|------------|-------|
| | 持株数 | 出資比率 |
| 1 株式会社カネカ | 1,102,400株 | 17.9% |
| 2 古川 令治 | 257,000株 | 4.2% |
| 3 古我 知史 | 224,400株 | 3.6% |
| 4 江平 文茂 | 222,000株 | 3.6% |
| 5 関西サービス株式会社 | 180,000株 | 2.9% |
| 6 乾 敏行 | 156,000株 | 2.5% |
| 7 JCW株式会社 | 147,700株 | 2.4% |
| 8 株式会社SBI証券 | 134,400株 | 2.2% |
| 9 藤原 洋 | 130,000株 | 2.1% |
| 10 坂本 友群 | 127,600株 | 2.1% |

(注) 1. 出資比率は自己株式を控除して小数点以下第二位を四捨五入して表示しております。
 2. 当社は、2014年3月31日現在、自己株式を1,200株保有しております。
 3. 2013年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。

会社の概要 (2014年6月19日現在)

- 商号 フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
- 設立 1998年9月11日
- 資本金 20億5,199万円
- 従業員数 23名
- 本社 〒604-8152
京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル
手洗水町659番地 烏丸中央ビル
- 管理部 TEL:075-257-2511 FAX:075-211-1601
- 営業部門 TEL:075-257-6656 FAX:075-211-6965



- 東京事務所 〒105-0001
東京都港区虎ノ門二丁目7番5号
ビュレックス虎ノ門
TEL:03-6205-4388 FAX:03-3597-4880
- 地域拠点 青森事務所 岩手事務所 山形事務所
三重事務所 堺事務所 愛媛事務所

役員

| | | | |
|---------|------|-----|------|
| 代表取締役社長 | 今庄啓二 | 取締役 | 鈴木智久 |
| 取締役 | 小川淳 | 取締役 | 松本直人 |
| 取締役 | 藤原洋 | 取締役 | 久原研 |
| 常勤監査役 | 木村純 | 監査役 | 岡部陽二 |
| 監査役 | 小川忠久 | | |



株主メモ

| | |
|------------------|---|
| 事業年度 | 4月1日～翌年3月31日 |
| 期末配当金受領 株主確定日 | 3月31日 |
| 中間配当金受領 株主確定日 | 9月30日 |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 株主名簿管理人 | 三井住友信託銀行株式会社 |
| 同連絡先 | 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL:0120-782-031 (フリーダイヤル) |
| 上場金融商品取引所 | JASDAQ市場 |
| 証券コード | 8462 |
| 公告の方法 | 電子公告により行う 公告掲載URL http://www.fvc.co.jp/ |

(ご注意)

1. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、下記特別口座の口座管理機関にお問い合わせください。
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
TEL 0120-094-077(フリーダイヤル)
2. 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザ・i-Stationを除く)にてお取扱いいたします。

フューチャーベンチャーキャピタル株式会社

〒604-8152 京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル
手洗水町659番地 烏丸中央ビル
TEL:075-257-2511 FAX:075-211-1601
<http://www.fvc.co.jp/>